



本書は、英語によるCrédit Agricole SA 2012 年度第4四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2013年2月20日 モンロージュ

2012年度及び2012年度第4四半期業績結果
安定した業績達成を目指し
次のステージへ
新しい一歩を踏み出すクレディ・アグリコル

リスク削減で新たな経済環境に迅速に対応。

- ギリシャから撤退。
- 資金調達に必要な額とリスク・ウェイト資産を削減し事業適応計画目標を達成。
- 南欧のオペレーションを再編。
- 運営効率を強化。

業績結果は例外的なオペレーションやエンボリキの売却に伴う課税修正の影響を反映。
厳しい経済環境の中、特定項目調整後純利益は各部門の堅調な事業展開を示す。
当グループのソルベンシー強化：2012年12月31日現在バーゼル3CET 1レシオ：9.3%¹
2013年12月末までに10%以上の達成を確認。

クレディ・アグリコルS.A.

リテール・バンキングと関連事業は引き続き堅調

純利益グループ帰属分：2012年度第4四半期-39億8,200万ユーロ、2012年度-64億7,100万ユーロ
特定項目調整後純利益帰属分：2012年度第4四半期+5億4,800万ユーロ¹、2012年度+30億900万ユーロ¹
ティア 1 レシオ：11.7%；コア・ティア1：9.7%² (+110bp/12月11日)

クレディ・アグリコル・グループ*

地域銀行の良好なパフォーマンス

グループのソルベンシー・レシオは大幅に改善

2012年の純利益グループ帰属分：-38億800万ユーロ
地域銀行の純利益グループ帰属分 +35億3,800万ユーロを含む
コア・ティア・1レシオ：11.8%¹ (+160bp/12月11日)
* クレディ・アグリコルS.A.と地域銀行の100%

¹ 除外項目：既存社債の再評価、エンボリキ、シュブルー、事業適応計画、のれん代の減損処理、証券の減損、保険のExit Tax。

² エンボリキの連結除外を調整。

クレディ・アグリコルS.A.

2012年度の業績見直しのために、2013年2月19日、ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。

2012年度第4四半期は、年初から当グループが直面するリスクを軽減することを目標とし、新たな経済環境に迅速に適応するための努力を継続してまいりました。目標達成のための決定事項による影響は、第4四半期の業績結果に反映されています。特定項目調整後純利益の+5億4,800万ユーロは下記に挙げる特殊要因による影響を受けたものの、純損失は-39億8,200万ユーロ(2011年第4四半期比+29.8%)にとどまりました。

クレディ・アグリコルS.A.のCEOジャン・ポール・シフレは、「2012年は変革と業務見直しの年でした。私達は新たなページをめくり、今年度は新規中・長期計画をたてる予定です。当計画は堅固な基盤の上で当社が前進していることを示してくれるでしょう。」と述べました。

クレディ・アグリコルS.A.の会長ジャン・マリ・サンデルは、「当グループの顧客重視型ユニバーサル・バンクのモデルの有効性がリテール・バンキングの運営の強みと資産管理業界における当銀行のリーダーシップに基づくものです。」と強調しました。

第4四半期の特定項目調整後純利益(特殊要因を除く)は、2011年度第4四半期比10%増の5億4,800万ユーロとなりました。マクロ経済の低迷が長期化する中、同純利益は、グループの中核ビジネスであるフランスのリテール・バンキング部門の堅調さと、資産管理部門の良好なパフォーマンスを主に反映しています。またCIB(法人及び投資銀行部門)が流動性と資本水準を取り崩さないモデルに適応していることも示しています。最後に、第4四半期特定項目調整後純利益はイタリアの経済状況がもたらした結果と消費者金融部門のローン残高削減による影響額も含まれています。

第4四半期の特殊要因(-45億3,000万ユーロ)には、のれんの減損費用、保有する有価証券の減損、既存社債の再評価による影響、Exit Tax、エンポリキ売却の最終決定条件による影響が含まれています。

2月1日付けのプレス・リリースで示されたように、クレディ・アグリコルS.A.はバランス・シート上ののれん代の公正価額を算定するテストを実施しました。その結果、グループ帰属分-26万7,000万ユーロの減損費用を認識しました。これは主に、より厳格な自己資本の要件と、関連する国及び事業のマクロ経済や金融市場の変化による影響を反映しています。これらの減損費用は、CIB(-8億3,200万ユーロ)、消費者金融部門(-9億2,300万ユーロ)、国際リテール部門(-9億2,100万ユーロ)で計上されました。

さらに、ポルトガルの銀行BESのクレディ・アグリコルS.A.が保有する持分20.2%の価額に対し、2億6,700万ユーロの減損費用が計上されました。また、2013年1月25日付けのプレス・リリースで発表されたように、地域銀行の連結財務諸表に認識されているSAS Rue La Boétieの株式持分の価値の棄損により、クレディ・アグリコルS.A.の連結利益はマイナス1億6,500万ユーロの影響を受けました(マイナスの影響額は、地域銀行の過去の合併に伴う持分価値の見直しにより4,000万ユーロ削減されました)。

2012年度第4四半期のその他の特殊要因には、当期中の資金調達条件が改善したことから自社債の再評価(収益ベースでは-8億3,700万ユーロ)により純利益で-5億4,100万ユーロのマイナスの影響

響額が発生したことと、保険会社の資本準備金に特例として7%の課税があり、およそ1億2,800万ユーロの税費用が発生したことが含まれます。

最後に、第4四半期の業績結果はエンポリキの売却の最終条件による影響額を反映しています。同売却は2013年2月1日に完了しましたが、純利益グループ帰属分には-7億600万ユーロの影響を及ぼしました。売却条件では、資金供給額の残額はなく、その結果第3四半期に計上された引当金は戻入されました。一方で、エンポリキ売却で認識された損失の税控除の推定額は、2013年2月19日のフランス政府からの回答に従って修正する必要がありました。

2012年度の純利益グループ帰属分は、-64億7,100万ユーロでした。第4四半期の特殊要因に加えて、同純利益はクレディ・アグリコルS.A.の経営見直し(エンポリキ関連の損失と売却、CAシュブルーの売却、インテサ・サンパオロの持分売却、バンキンターの連結除外、ハイブリッド債の買戻し)に伴う前期までの決定による影響と第3四半期に計上された消費者金融部門ののれん代減損費用を含めています。

2012年度は、当グループは数多くの主要な戦略計画を実施しました。これらは新しい金融環境と監督規制に対応するために徹底して行われたもので、非中核事業の売却、バランス・シート上の資産に関する再評価、運営効率の向上等が含まれています。ギリシャの子会社エンポリキの売却は、2012年度下半期中に実施し、資金供給額の残額は6月末時点では46億ユーロでしたが、最終的にはゼロになりました。同時に当グループは南欧の資産の見直しに力を入れました。インテサ・サンパオロの株の持分を全て売却し、BES銀行の持分を維持しながらBES Vidaへの持分は売却しました。またバンキンターへの投資も2012年の年初の20%以上から同年末には15.1%へと削減し、それ以降は10%以下まで削減しています。

これらの特殊要因を修正した後の**特定項目調整後純利益**は+30億900万ユーロとなりました。フランス国内のリテール・バンキングは深刻な景気低迷にもかかわらず良好な業績結果を達成しました。2012年度中のオン・バランスシートの預金残高は5.6%増、ローン残高は1.4%増となりました。イタリアでは、オン・バランスシートの顧客預金が5.5%増加し、一方ローン残高は1.2%減少しました。資産管理部門は、第4四半期の堅調な事業展開により1年間でアムンディが152億ユーロ、クレディ・アグリコル・アシュアランスが19億ユーロの新規資金流入額の純増を記録しました。専門金融サービス部門では、事業適応計画の目標に沿って収益は減少しましたが、CIBの収益はほぼ安定して推移しました(3.3%減)。

2011年9月に発表された事業適応計画は2012年度中に全て完了しました。負債の削減と資本効率の最適化は目標を上回りました。当グループは資金調達が必要額を680億ユーロ削減、リスク・ウェイト資産は570億ユーロ削減しました。これらはそれぞれ当初の目標額の136%、160%に相当します。

2012年に運営効率向上のための幾つかの**費用削減プログラム**が実施されました。具体的には、CACIBとCACFのための事業適応計画のほか、2012年にカリパルマで全面的に実施された雇用最適化計画(2012年度中に全て引き当て済)、クレディ・アグリコルS.A.全般にわたる、IT、資材の調達、不動産に関わる「MUST」費用削減プログラム(2016年までに6億5,000万ユーロ)の導入などが挙げられます。

ソルベンシーでは、2012年12月末現在のクレディ・アグリコルS.A.のコア・ティア1レシオ(パーゼ

2.5)は、エンポリキの連結除外を調整後9.7%となりました。エンポリキの連結除外は、2013年度第1四半期の決算報告にも影響を及ぼすことになります。同レシオは2011年12月31日時点比110ベース・ポイント上昇しています。この改善は主に事業適応計画の完了に伴いリスク・ウェイト資産が400億ユーロ削減されたことによるものです。

2012年度の業績結果と短期ソルベンシー目標を考慮した結果、取締役会は2012年の配当支払提案を株主総会に提出しないことを決定しました。

銀行、金融を取り巻く新たな環境に適応する数々の対策を採用した結果、クレディ・アグリコルS.A.は安定的な業績を達成する体制を十分確保しました。

クレディ・アグリコル・グループ

地域銀行100%を会計範囲に含むクレディ・アグリコル・グループは、2012年の純利益グループ帰属分が-38億800万ユーロとなりました。これは当然のことながらクレディ・アグリコルS.A.が計上した特殊要因による影響を受けました。それには地域銀行の純利益(前年同期比3.4%増の+35億3,800万ユーロ)全てが含まれています。

地域銀行の業績結果は、欧州財政危機にもかかわらず堅調なパフォーマンスを反映しています。地域銀行の預金合計額は、オン・バランスシートの預金残高の5.7%増加を含めて、1年間で4.4%増加しました。消費者信用残高は1.4%増、住宅ローン残高は2.2%増となりました。預貸比率も改善し、129%から2012年12月末現在の126%に低下しました。全体で、地域銀行の収益は前年同期比2.4%増となりました。

ソルベンシーでは、当グループは財務の健全性を強化し、2012年12月末現在のバーゼル2.5コア・ティア1レシオは、エンポリキの連結除外調整後、11.8%となりました。同レシオは前年同期比160ベース・ポイント上昇しましたが、これは事業適応計画の完了に伴いリスク・ウェイト資産が420億ユーロ以上も削減されたことに起因します。エンポリキの連結除外を除いた場合、2012年12月31日現在のコア・ティア1レシオは11.4%となり、1年間で120ベース・ポイント改善しました。当グループは、2013年末までに10%以上のバーゼル3普通株式ティア1レシオを完全に達成するという目標を再確認しました。これは監督規制の要件以上の水準であり、グローバル・レベルにおいてシステム上重要な金融機関(1%)としての必要バッファを満たすものでもあります。2012年12月末現在、同レシオは9.3%となっています。

2012年9月30日時点と2011年12月31日時点の手元流動性準備金がそれぞれ2,010億ユーロと1,100億ユーロだったのに対し、2012年12月末現在は2,300億ユーロでした。これは短期資金を十分にカバーします(168%)。長期の資金運用に対する長期資金調達額の超過額は2012年12月31日現在で470億ユーロでした。さらにクレディ・アグリコルS.A.の中・長期債発行プログラムでは、2012年1月1日から12月31日の間に188億ユーロが調達され、2012年度の設定額120億ユーロを上回りました。2012年1月1日以降、当グループのネットワーク経由あるいは追加資金調達により、12月31日現在で206億ユーロが調達されました。

社会的・環境的責任

2012年、クレディ・アグリコルS.A.は初めて当グループの社会的パフォーマンスを測る「FReD指標」の結果を発表しました。指標は2.4の評価を得ました。これは当グループのCSRアプローチに参加する10の部門の成果を反映しています。それら10の事業体とは、アムンディ、クレディ・アグリコル・アシュアランス、CACEIS、クレディ・アグリコル消費金融、CA-CIB、クレディ・アグリコル・リーシング & ファクタリング、クレディ・アグリコル・インドスエズ・プライベート・バンキング、カリパルマ、クレディ・アグリコルS.A.とLCLです。約200近くの実行プランが1(プランの選択)から5(目標達成)の評価を受けました。2.4¹の評価は、独立した第三者監査人であるプライス・ウォーターハウス・クーパーズから認証されました。

FReDは、当グループのCSR活動を継続的に促進し、向上させるためのグローバル・レベルでの新たな取り組みです。それはクレディ・アグリコルS.A.グループ全体にCSRを普及させ、コミットさせることを目指していますが、他方、経済、社会、環境といった分野において独自にプライオリティを設定できる裁量も残しています。2012年と2013年は、社内において障害者への対応と男女平等の促進という2つの明確な焦点が明示されました。この目的は、当グループの各部門の参加とイニシアチブを促すことです。その際FReDは共通の枠組みを提供し、それに沿って各部門が独自のCSR方針を策定し、その進展をグループ内で比較することが可能になります。

決算スケジュール

2013年5月7日	2013年度第1四半期決算発表
2013年5月23日	株主年次総会
2013年8月6日	2013年度第2四半期決算発表
2013年11月7日	2013年度第3四半期決算発表

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10). This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market values and asset depreciations. Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the twelve-month period ending 31 December 2012 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date.

¹ カリパルマでは、イタリアでの当プロセスの導入の遅れを考慮して、18ヶ月の期間で計算された。グループ指標の算定への影響額は+5%まで。

クレディ・アグリコルS.A.連結決算

(in millions of euros)	Q4-12	Change Q4/Q4*	2012*	Change 2012*/2011*
Revenues	3,326	(23.0%)	16,315	(15.8%)
Operating expenses	(3,120)	(8.5%)	(12,037)	(2.9%)
Gross operating income	206	(77.4%)	4,278	(38.8%)
Cost of risk	(1,041)	(29.6%)	(3,736)	(12.1%)
Operating income	(835)	47.0%	542	(80.2%)
Equity affiliates	(156)	(78.5%)	503	x2.2
Net income on other assets	111	x14	188	nm
Change in value of goodwill	(2,823)	79.2%	(3,395)	x2.2
Income before tax	(3,703)	29.5%	(2,162)	nm
Tax	255	48.2%	(360)	(59.3%)
Net income from held-for-sale operations	(717)	+89.3%	(3,991)	x2.3
Net income	(4,165)	+35.8%	(6,513)	x5.4
Minority interests	(183)	nm	(42)	nm
Net income Group share	(3,982)	+29.8%	(6,471)	x4.4

*2011年度と2012年度はIFRS第5号に従ってエンボリキ、シュブルー、CLSAの計上は修正再表示されました。

2012年度第4四半期のクレディ・アグリコルS.A.の**収益**は33億2,600万ユーロに達しました。これにはクレディ・アグリコルS.A.のスプレッドの改善に関連して、既存社債の再評価による8億3,700万ユーロのマイナス影響額が折り込まれています。この影響額と事業適応計画の下でのポートフォリオの売却にともなうマイナスの影響額1,900万ユーロを除いた場合、特定項目調整後の収益は2011年度第4四半期比6.4%減少しました。2012年度の収益は、前年比15.8%減の163億1,500万ユーロでした。特殊要因（既存社債の再評価と事業適応計画に沿ったポートフォリオの売却）の控除前では、1年間で5.7%減少しました。

2012年第4四半期の営業費用は前年同期比8.5%減少しました。年度ベースでは、費用削減に取り組んだ結果2011年度比2.9%減の120億3,700万ユーロとなりました。事業適応計画に伴い計上された費用を除いた場合の営業費用は0.2%減少しました。

2012年度第4四半期の営業総利益は、前年同期比77.4%減の2億600万ユーロとなりました。特殊要因（既存社債の再評価、2011年度のCIBと専門金融サービス部門への事業適応計画の影響額）を除いた場合、23.5%の減少となります。2012年度の営業総利益は前年同期比38.8%減の42億7,800万ユーロで、特殊要因を除いた場合は15%減となりました。

2012年度第4四半期の**リスク関連費用**は、2011年度第4四半期の14億8,000万ユーロに対し、10億4,100万ユーロとなりました。2012年度は37億3,600万ユーロでした。

2012年12月末現在の不良債権残高（対顧客のファイナンス・リースは除く）は156億ユーロで、2011年度末とほぼ同水準（+0.5%）でした。2012年9月末時点と2011年12月末時点のリスク関連費用は、顧

客及び銀行間ローン総残高の3.3%だったのに対し、2012年12月末現在は3.5%でした。特定引当金による不良債権の引当率は引き続き上昇し、2012年9月末時点の56.9%¹と2011年12月31日時点の55.4%¹から2012年12月末現在の57.3%に上昇しました。一般引当金を含めた場合、不良債権引当率は75.7%でした。

関連会社の収益は、2012年度第4四半期は-1億5,600万ユーロ、2012年度は+5億300万ユーロでした。これにはSAS Rue La BoétieとSACAM インターナショナルの持分の減損と地域銀行の合併に伴う持分価額の修正が含まれます。合計では、これらの要因により地域銀行のクレディ・アグリコルの収益への寄与が第4四半期は1億4,100万ユーロ、2012年度は2億800万ユーロ減少しました。また第4四半期のBESの減損費用2億6,700万ユーロと2012年8月のバンキンターの連結除外による影響額(-1億9,300万ユーロ)も含まれています。

2012年度のれん代の消却費用は、-33億9,500万ユーロでした。これには減損テスト、強化されたブルーデンス要件による影響、関連諸国と事業部門におけるマクロ経済及び金融環境による影響などを考慮して第4四半期に計上された-28億2,300万ユーロが含まれています。減損費用は、CIBが純利益グループ帰属分には-8億2,600万ユーロ、消費者金融部門が純利益グループ帰属分には-9億2,300万ユーロ、国際リテール・バンキングが純利益グループ帰属分には-9億2,100万ユーロとなっています。

2012年度第4四半期と2012年度の**税引前純利益**は、それぞれ-37億300万ユーロ、-21億6,200万ユーロで、特殊要因を除いた場合は+4億8,600万ユーロ、+39億3,400万ユーロとなりました。

非継続事業あるいは売却予定の事業の純利益は、2012年度第4四半期が-7億1,700万ユーロ(エンポリキ売却の最終条件に関連する+1億2,700万ユーロと同取引にかかる課税-8億3,800万ユーロの合算)、2012年度がエンポリキ、シュブルー、CLSAの売却を反映して-39億9,100万ユーロとなりました。

2012年度第4四半期のクレディ・アグリコルS.A.の**純利益グループ帰属分**は-39億8,200万ユーロでした。特殊要因(既存社債の再評価、のれん代減損、SAS Rue La BoétieとBESの持分減損、エンポリキの売却、Exit Tax)を除いた場合は5億4,800万ユーロで、特定項目調整後では前年同期比10%増となりました。

事業適応計画完了: 資金調達必要額とリスク・ウェイト資産の大幅な削減

当グループは、2011年12月14日に発表した事業適応計画を引き続き積極的に実施し、負債削減と資本効率の最適化に関して当初の目標を達成しました。それに伴い当グループは、現在の為替レートで2011年6月から2012年12月の間に流動性必要額を680億ユーロ削減し、目標額500億ユーロの136%を達成しました。同期間に、リスク・ウェイト資産は一定の為替で570億ユーロ削減されました(目標の160%達成)。これにはパーゼル3の影響とリスク・ウェイト資産を140億ユーロ削減したMarylebone社との取引が含まれています。

これらの削減は、3つの事業部門で採用された計画を反映しています。リテール・バンキング部門では預貸比率が著しく改善され、2011年6月時点の129%から2012年12月末現在は122%になりました。

¹ IFRS第5号に従い再分類されたエンポリキ、CAシュブルー、CLSAを除く調整後ベース。

専門金融サービスは、調達必要額を削減し、ドイツのリテール部門の預金ビジネス、証券化、債券発行などによる外部での資金調達に成功し、同計画実施の期間中に70億ユーロの資金調達を行いました。このうち20億ユーロが2012年度第4四半期に含まれます。最後に、新規モデルの実施に加えて、CA-CIBは2012年度第4四半期の4億ユーロ、CDO、RMBSポートフォリオ、コリレーション・ポートフォリオのマーケット・リスクを含む103億ユーロのローン・ポートフォリオを売却しました（わずかに平均2.3%の割引率で売却）。

	Funding	Solvency
(€bn)	Reduction in funding needs at 31/12/2012 ⁽¹⁾	Reduction in risk weighted assets at 31/12/2012 ⁽²⁾
Retail banking	- 22	
SFS	- 13	- 6
CIB	- 33	-51
Total	- 68	-57

(1) 現在の為替レート。

(2) 一定の為替レート。バーゼル3の影響額を含める。

財務状況

2012年、クレディ・アグリコルS.A.はさらに財務ポジションを強固なものとししました。コア・ティア1レシオは2011年12月31日時点の8.6%から2012年12月31日現在の9.2%に上昇しました。

当期中クレディ・アグリコルS.A.は、含み益の増加(50bp)、CIBと専門金融サービス部門における事業適応計画の継続(54 bp)、CACIBのコリレーション・ブックのマーケット・リスクの売却完了(49 bp)のプラス効果を計上しました。一方、エンポリキ売却損のため利益剰余金は93ベース・ポイント低下しました（のれん代減損費用を除く）。このうち約50ベース・ポイントは、ギリシャの子会社のリスク・ウェイト資産の連結除外により、2013年度第1四半期中に相殺される予定です。

2012年は、リスク・ウェイト資産は406億ユーロ減少しました（第4四半期の52億ユーロを含む）。これは主に事業適応計画とコリレーション・ブックのマーケット・リスクの移転によるものです。それらは2011年12月31日時点の3,337億ユーロから2012年12月31日現在の2,931億ユーロに減少しました。

第4四半期だけでコア・ティア1レシオは10ベース・ポイント低下しました。エンポリキのリスク・ウェイト資産の連結除外（2013年度第1四半期に取引完了予定）を考慮に入れた場合、コア・ティア1レシオは調整ベースで9.7%になります。

流動性

クレディ・アグリコル・グループの2012年12月末現在のバランス・シート上の現金は、2011年12月末時点比20億ユーロ増の1兆320億ユーロでした。

当グループが市場にて調達した370日以内償還債券の発行済残高に相当する短期資金（中央銀行へのレポとリバース・レポの相殺分ならびに中央銀行のリファイナンス、合計340億ユーロを除く）は、2011年12月31日時点の1,360億ユーロに対し、2012年12月31日現在で1,370億ユーロとなりました。短

期の市場資金とレボは1年間で120億ユーロ減少しているのに対し、主に中央銀行への預金や銀行間預金と、証券ポートフォリオ等の流動性資産は1年間で360億ユーロ増加しました。

長期の利用可能な資金に対する長期資金調達源の超過額は、2012年12月31日現在で470億ユーロとなりました。2012年12月31日現在の長期資金調達源は合計8,610億ユーロに達し、それらは長期の市場資金、顧客関連資金や資本(及び類似項目)から成ります。

長期の資金調達源は2011年12月31日から2012年12月31日の間に140億ユーロ増加しました。2012年12月31日現在の顧客関連資産、有形・無形固定資産関連の資金調達必要額は、2011年12月31日時点比340億ユーロ減の8,140億ユーロとなりました。

資金調達必要額における680億ユーロの削減は事業適応計画のもとで達成され、そのうち210億ユーロの削減が2011年度末に、470億ユーロの削減が2012年度中に計上されました。この470億ユーロの削減は、主に顧客関連資金の増加(230億ユーロ)と顧客関連資産の減少、顧客関連トレーディング資産の減少(270億ユーロ)による結果です。

2012年度末現在の中央銀行から即時利用可能な資産準備金(ヘアカット後)あるいは即時利用可能な現金準備金は、2012年9月末時点比290億ユーロ増の2,300億ユーロでした。これは2012年度末現在の短期資金1,370億ユーロを十分にカバーします(168%)。

即時利用可能な準備金は中央銀行でリファイナンス可能な流動性証券950億ユーロ(準備金合計の41%)、流動性証券150億ユーロ(7%)、中央銀行への預金530億ユーロ(23%)、中央銀行でリファイナンス可能な資産580億ユーロ(25%)、中央銀行でリファイナンス可能な証券化及び再証券化商品90億ユーロ(4%)から構成されています。

中・長期資金調達に関しては、クレディ・アグリコルS.A.は120億ユーロに設定された2012年度の中・長期債発行計画を超えています。2012年1月1日から12月31日の間に188億ユーロが調達されました。平均償還年限条件は6.3年で、平均スプレッドはミッド・スワップに対し121.9ベース・ポイントでした。クレディ・アグリコルS.A.の2013年度の中・長期資金調達計画も、2012年度計画と同水準の120億ユーロとします。

同時に、当グループはリテール銀行のネットワークと専門金融子会社を通して、主に債券発行による追加の資金調達手段へのアクセスを進めています。2012年12月31日現在では、地域銀行のネットワークを通して37億ユーロ、LCLとカリパルマのネットワークを通して49億ユーロ、CA-CIB(主にプライベート・プレースメントによる)を通して76億ユーロ、アグリコル消費者金融(主に証券発行と証券化)により44億ユーロが調達されました。当グループのリテールのネットワークと専門金融子会社により行われた2012年度中の中・長期債発行は合計206億ユーロに達しました。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

2012年度第4四半期のフランス国内リテール・バンキング部門は、フランス経済の低迷が長期化する中で堅調な業績結果を達成しました。支店ネットワークは引き続き力強い展開を見せ、2012年12月31

日現在のオン・バランスシートの預金は前年同期比5.6%増の4,137億ユーロに達しました。このような好調な業績結果は、一部にはより魅力的な預金口座になるよう改善されたプロダクト・ミックスによるものであり、Livret A預金やLDD預金口座といった非課税貯蓄性預金においてはその預金上限枠が引き上げられたことによって、第4四半期だけで120億ユーロの預金が集まりました。利付預金の著しい伸びは定期預金口座の増加によるもので、2011年12月31日時点比18.7%増加しました。

同時に、オフ・バランスシートの預金も引き続き増加しています。これはポジティブな市場効果と生命保険に対する関心が再び高まってきたことによるもので、2012年度末現在で前年同期比2.6%増の3,173億ユーロとなりました。

2012年12月31日現在のローン残高は前年同期比1.4%上昇し、4,852億ユーロとなりました。

2012年12月31日現在の預貸比率は、2011年12月31日時点の130%に対し124%となりました。事業適応計画の開始から6ポイント改善しています。2011年12月末時点の同比率は126%でした。

2012年度第4四半期の地域銀行による営業利益への寄与は、2億1,000万ユーロでした。SAS Rue La Boétieへの出資分の減損費用(－1億6,500万ユーロ)、地域銀行の合併に伴う出資分の評価修正(+4,000万ユーロ)、SACAMインターナショナルへの出資分の減損費用(－1,600万ユーロ)を控除後の寄与は、6,900万ユーロに減少しました。2012年度第4四半期のLCLの寄与は、前年同期比5.8%減の1億2,300万ユーロでした。

全体では、第4四半期のフランス国内のリテール・バンキング部門の営業純利益グループ帰属分は3億3,300万ユーロ、2012年度は前年同期比0.7%増の16億9,500万ユーロとなりました。

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q4-12	Change Q4/Q4	2012	Change 2012/2011
Net income accounted for under the equity method (at about 25%)	72	(66.7%)	674	(21.1%)
Change in share of reserves	(3)	nm	150	(2.6%)
Equity affiliates	69	(68.3%)	824	(18.4%)

2012年度第4四半期の地域銀行は、事業戦略に沿って引き続きバランスのとれた伸びを達成することができました。

地域銀行は全体的に預金で堅固な業績結果を達成し、前年同期比4.4%増の5,743億ユーロとなりました。オン・バランスシートの預金は、前年同期比5.7%増の3,337億ユーロに達しました。この増加は主に定期預金口座(+18.1%)、預金口座(+10.8%)でしたが、その大半がLivret A預金とLDD預金口座(2012年10月1日より実施の預金上限枠の引上げ効果によって)などの残高の伸びによるものです。これらは第4四半期のみで105億ユーロと、第3四半期に比較し21.6%増となる預金を獲得しました。それと同時に地域銀行はオフ・バランス・シートの預金に、マーケット効果がポジティブに作用したことから堅調な伸びを維持しました。2012年12月31日現在のオフ・バランスシートの預金は、前年同期比2.6%増の2,406億ユーロに達しました。証券のパフォーマンスは目覚ましく、顧客預かり資産は前年同期比13.3%増加しました。同様に生命保険もマーケットのポジティブ効果の恩恵を受けました(前年同期比

+2.0%)。

2012年12月31日現在のローン残高は2011年12月31日時点比1.4%増の3,960億ユーロでした。住宅ローンの伸びは緩やかだったものの、前年同期比+2.2%増の良好な水準を維持しました。

その結果、預貸比率は2011年12月末時点の129%から2012年12月末の126%へと改善しました。

2012年度第4四半期の地域銀行の収益(グループ内取引を修正後)は、前年同期比12.2%減の2兆9,150億ユーロとなりました。この減少は、評価方法の変更によるSAS Rue La Boétieへの出資分の減損費用(−6億5,000万ユーロ)や地域銀行の合併時の「CNCA」持分の再評価の見直しにより1億6,100万ユーロの調整があったことを反映しています。さらに、SACAMインターナショナルへの出資分の減損費用(6,200万ユーロ)も反映しています。これらの減損費用と住宅購入貯蓄プランの影響を除くと、2012年度第4四半期収益は前年同期比4.1%の増加となっており、2012年度は前年比1.5%増となります。

2012年度第4四半期の費用は、前年同期比6.5%増加しました。これには金融法改正と年金改革法の一部として2012年に制定された新規課税、ニース(NICE)・プロジェクトの費用2億2,300万ユーロの増加(2011年に計上した2億900万ユーロを若干上回る水準)が含まれています。金融法改正の枠組みの中で2012年に成立した新規課税とニース・プロジェクトによる投資の増加(2012年度第4四半期に+1,400万ユーロ)の影響を除いた場合の費用は、2011年度第4四半期比3.9%の増加となりました。

リスク関連費用1億5,000万ユーロを考慮に入れた2012年度第4四半期の営業利益は、7億3,500万ユーロでした。ローン残高に対するリスク関連費用は、2011年度第4四半期が極めて低い4ベース・ポイントだったのに対し、2012年度第4四半期は15ベース・ポイントでした。2012年12月末現在の不良債権比率は2.4%で、2010年末以降安定した水準を維持しています。2012年12月末現在の不良債権に対する引当率(一般引当金を含む)は2011年12月末時点の108.8%と同様107.6%の高い水準を維持しました。

結果的に、2012年度第4四半期のクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分に対する地域銀行の寄与は前年同期比68.3%減の6,900万ユーロとなりました。減損費用のマイナス影響分と持分評価調整を除いた場合の寄与は2億1,000万ユーロになります。2012年度のクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分に対する地域銀行の寄与は8億2,400万ユーロで、減損費用のマイナス影響分と持分評価調整を除いた場合は前年同期比1.9%増の10億3,200万ユーロになります。

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q4-12	Change Q4/Q4	2012	Change 2012/2011
Revenues	919	(0.2%)	3,891	+ 1.8%
Operating expenses	(639)	(0.4%)	(2,522)	+ 1.0%
Gross operating income	280	+ 0.1%	1,369	+ 3.3%
Cost of risk	(77)	+ 10.5%	(311)	+ 8.6%
Operating income	203	(3.4%)	1,058	+ 1.8%
Net income on other assets	2	nm	1	nm
Income before tax	205	(3.2%)	1,059	+ 1.8%
Tax	(75)	+ 1.5%	(361)	+ 9.5%
Net income	130	(5.7%)	698	(1.8%)
Minority interests	7	(4.4%)	35	(1.4%)
Net income Group share	123	(5.8%)	663	(1.8%)

第4四半期中のLCLは、引き続き個人、法人、中小企業の顧客を支援しました。2012年度第4四半期の住宅ローン残高は、その需要が減少しているにもかかわらず前期比で0.9%増、前年同期比では3.0%増、住宅ローン残高合計は1.6%増の892億ユーロに達しました。

また、オン・バランスシートとオフ・バランスシートの顧客預金は、年間を通じてバランスの取れた伸びを見せましたが、第4四半期には生命保険の新規流入もありました。ポジティブな市場効果と2012年末の堅調な実績により、生命保険の管理資産は前年同期比5.4%増加しました。2012年12月31日現在の預金残高合計は、前年比3.9%増の1,567億ユーロに達し、オン・バランスシートの預金は、前年比5.0%増加、オフ・バランスシートの預金は、前年比2.8%増加しました。

2012年12月末現在の預貸比率は116%で、2012年度第4四半期にLivret A預金とLDD預金口座の預金上限枠が引き上げられたにもかかわらず、一年間安定して推移しました。2011年6月末以降、事業適応計画が実施されましたが、預貸比率は13ポイント改善しています。

第4四半期の収益は9億1,900万ユーロで、2011年第4四半期とほぼ同様の水準でした(−0.2%)。これは利ざやが堅調だったことによるもので、2012年第4四半期中に利鞘は前年同期比2.3%上昇しました。一方、手数料収入は、顧客の証券取引高の減少によるマイナスの影響を受け、第4四半期は前年同期比3.4%減少しました。

2012年度第4四半期の営業費用は、金融法改正と年金改革法により制定された新規課税の影響を除いた場合、2011年度第4四半期比3.4%減少しました。この不利な影響を含めても、営業費用は厳格に抑えられており、同期間で0.4%の減少となりました。

2012年度第4四半期の営業総利益は前年同期比0.1%増、2012年度は3.3%増となりました。これら2つの要因により、コスト比率は改善し、2012年第4四半期は前年同期比0.1%減の69.6%となりました。

2012年度第4四半期のリスク関連費用は前年同期比10.5%増加したものの、不良債権比率は2.4%と安定した水準を維持しました。引当金比率は、一般積立金を含めて、2011年12月末の75.5%から76.8%に上昇しました。

全体では、2012年度第4四半期の純利益グループ帰属分は1億2,300万ユーロで、前年同期比5.8%減少しました。2012年度は、純利益グループ帰属分はわずか1.8%減の6億6,300万ユーロでした。

2. 国際リテール・バンキング

10月に発表されたエンポリキの売却は2013年2月1日に完了しました。2012年12月31日現在、エンポリキはクレディ・アグリコルS.A.の財務諸表に含まれていますが、IFRS第5号に準拠して2012年9月30日時点と同様の条件で計上されています。

(in millions of euros)	Q4-12	Change Q4/Q4*	2012*	Change 12/11*
Revenues	611	+5.5%	2,472	+3.9%
Operating expenses	(478)	+14.7%	(1,707)	+8.9%
Gross operating income	133	(18.2%)	765	(5.8%)
Cost of risk	(162)	+20.4%	(522)	+18.4%
Operating income	(29)	Nm	243	(34.5%)
Equity affiliates	(257)	(73.7%)	(393)	(56.9%)
Net income on other assets	(1)	Nm	(3)	nm
Change in value of goodwill	(1,066)	x3.9	(1,066)	x3.9
Income before tax	(1,353)	+10.6%	(1,219)	49.6%
Tax	22	(48.5%)	(50)	(40.2%)
Net income from held-for-sale operations	(709)	nm	(3,742)	x2.3
Net income	(2,040)	36.4%	(5,011)	+99.7%
Minority interests	(145)	x7.5	131	x2.6
Net income Group share	(1,895)	28.3%	(4,880)	+98.5%

*2011年度と2012年度はIFRS第5号に準拠してエンポリキは再修正されています。

イタリアでは、カリパルマが厳しい経済環境の中で良好な業績を達成しました。

2012年12月31日現在のローン残高は、2011年12月31日時点比1.2%減の334億ユーロとなり、マーケットの平均減少率2.9%¹を下回る減少率でした。預金残高合計は前年同期比5.5%増の356億ユーロに増加しました。一方マーケットは3.5%¹減少しました。その結果、カリパルマはイタリアの当グループの他の事業部門の資金調達に寄与し、流動性剰余金を創出することができました。

2012年第4四半期の収益は、2011年度第4四半期の好収益との比較においても前年同期比4.5%増加しました。この業績結果は、手数料収入が堅調であったことも一因しています。1年間で収益は2.6%増加しました。

第4四半期は、2012年度第1四半期に開始した早期希望退職プラン(voluntary departure plan)の延長による影響を受け、同プランの費用の引当金として、2012年度第2四半期に5,400万ユーロ計上されたのに加えて、2012年度第4四半期には6,400万ユーロが計上されました。同プランのもとで、720名の従業員が2015年までに退職する予定です。全体では、2012年度第4四半期の営業費用²は前年同期比2.2%増加し、2012年度は0.9%増加しました。

¹ 出典：Associazione Bancaria Italiana

² 2012年度第2四半期と2012年度第4四半期の早期希望退職プラン(PDV)の費用、会計範囲の変更と2011年度の統合関連費用による影響額を除く。

カリパルマのリスク関連費用は、引き続き悪化する財政危機によるマイナスの影響を受け、2012年度第4四半期は前年同期比32.1%増の1億2,300万ユーロとなりました。残高に対する不良債権比率は8.1%で、引当率は45.4%でした(2012年9月30日現在は43.3%)。

さらに、3,500万ユーロの引当金がコーポレート・センターの一般引当金勘定の中に計上されました。この引当金は、現在銀行セクター全体で行われているイタリア中央銀行による監査上の要件を将来満たすであろうとみなされています。第4四半期もののれん代減損テストによる影響を受け、イタリアのリテール・バンキングで8億5,200万ユーロの費用が計上されました。

全体では、純利益グループ帰属分は、カリパルマののれん代減損費用を除いて、第4四半期は1,000万ユーロの損失、2012年度は8,900万ユーロの利益となりました。

ギリシャでは、10月16日にクレディ・アグリコルS.A.がエンポリキの株式100%をアルファ銀行に売却する契約を締結したと発表しました。関連各省庁の認可を受けた後、売却は2013年2月1日に完了しました。

同取引の完了により、-7億600万ユーロの純利益グループ帰属分が2012年度第4四半期のクレディ・アグリコルS.A.の連結財務諸表に計上されました。この中には、今後は適用されませんが、資金供給額に対する引当金の戻し入れも含んでいます。CA-CIBIはエンポリキの船舶ファイナンスのポートフォリオの資産を14億米ドルで買収し、エンポリキは資金供給の残額をクレディ・アグリコルS.A.に払戻しました。売却後、エンポリキはクレディ・アグリコルから一切資金供給を受けることはありません。一方、2012年度第3四半期に予想された税効果は、関連損失の税控除に関するフランス政府の回答により修正を受けました。

2012年12月31日現在、**イタリアとギリシャを除く**当グループの他の国際銀行はバランスのとれた預貸比率を維持しました。オン・バランスシートの預金は102億ユーロで、ローン総残高は98億ユーロでした。BESへの出資分とクレディ・アグリコル・エジプトののれん代減損費用(6,900万ユーロ)を除き、これらの銀行による純利益グループ帰属分への寄与は2012年度第4四半期が900万ユーロ、2012年度は1億1,500万ユーロとなりました。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q4-12	Change Q4/Q4	2012	Change 12/11
Revenues	819	(14.4%)	3,445	(12.3%)
Operating expenses	(412)	(14.3%)	(1,601)	(8.2%)
Gross operating income	407	(14.5%)	1,844	(15.5%)
Cost of risk	(613)	+ 1.2%	(2,105)	+ 31.1%
Operating income	(206)	+ 58.4%	(261)	nm
Equity affiliates	5	+ 28.7%	19	+ 37.9%
Change in value of goodwill	(923)	x3.7	(1,495)	x6.0
Income before tax	(1,124)	x3.0	(1,737)	nm
Tax	(38)	nm	(101)	(58.5%)
Net income	(1,162)	x3.3	(1,838)	nm
Minority interests	85	x4.4	225	nm
Net income Group share*	(1,077)	x3.2	(1,613)	nm

2012年度の専門金融サービス部門は、事業適応計画に沿って流動性の目標を達成しました。第4四半期には事業部門の縮小と資金調達源の多様化を図りました。クレディ・アグリコル・消費者金融(CACF)の連結ベースの消費者信用残高は、2011年6月以降46億ユーロ減の476億ユーロとなりました。46億ユーロ減の中には、第4四半期の約10億ユーロの減少を含んでいます。このうちアゴス・デユカト(Agos-Ducato)は、2011年6月から2012年12月の間に14億ユーロの残高を削減しました。また46億ユーロの減少のうち、36億ユーロは欧州の消費者金融市場の低迷や信用供与のより厳格な基準設定、収益性の低いと判断されたパートナーシップの解消などによるものです。他方、不良債権11億ユーロが事業適応計画の実施期間中に売却されました。この中にはアゴス・デユカトが第4四半期中に売却した5億ユーロのポートフォリオが含まれますが、十分な引当金が積まれていました。管理されたローン・ブックは2011年6月から6億ユーロ減少し、クレディ・アグリコル・グループに代わり管理された残高は安定した水準を維持しました。CACFが管理した消費者信用残高合計は、2012年12月31日現在732億ユーロとなり、2011年6月以降52億ユーロ減少しました。地理的な内訳は前期とほぼ同様で、フランス38%、イタリア34%(2012年第3四半期比1ポイント低下)、その他の国が28%(1ポイント上昇)でした。

CACFは外部での資金調達源の多様化に向けて努力を重ね、2011年6月から2012年12月末の間に70億ユーロ以上の追加ファイナンスを行いました(2012年度第4四半期の20億ユーロを含む)。

クレディ・アグリコル・リーシング & ファクタリング(CAL&F)も事業適応計画に沿って消費者信用残高圧縮と外部資金調達の多様化に向けて取り組みを強化しました。その結果、2012年12月31日現在のリース・ファイナンス資産は2011年12月31日時点比6.5%減の186億ユーロとなりました。フランス国内では、管理資産は当期中に8.2%減少しました。2012年12月31日現在の売掛債権は563億ユーロとなり、2011年12月31日時点比6.0%減少しました。減少の約半分は海外のオペレーションによるものです。

2012年、専門金融サービス部門の業績結果はのれん代の減損費用、イタリアにおけるマクロ経済の

悪化、事業適応計画の費用等によってマイナスの影響を受けました。収益は、フランス国内の不利な監督規制の傾向(消費者金融法)やイタリアの債務者保険規制の改正、ビジネスの低迷(一部は利鞘増加により相殺)、償還期限の長期化によるリファイナンス費用の増加などによる影響を受けました。2012年度の収益は2012年度第4四半期の8億1,900万ユーロを含む34億4,500万ユーロとなりました。これらの影響を軽減するために、CACFとCAL&Fは費用削減のための徹底的な対策を開始しました。その結果費用は、2012年度は前年同期比8.2%の減少、2012年度第4四半期は前年同期比14.3%の減少となりました。コスト比率は、2012年度が46.5%、第4四半期が50.3%となりました。2012年度第4四半期のリスク関連費用は前年同期比安定していましたが、2012年度は31.1%増加しました。こうした傾向は、子会社等によって費用の増減に格差があったことを反映しています。一方で、CACFフランスでのリスク関連費用は改善してきており(2008年度第3四半期以降最低水準に低下)、またアゴス以外の海外子会社でも2011年度第4四半期から2012年度第4四半期の間にリスク関連費用が全体で1.8%低下しています。他方、アゴスのリスク関連費用は、4億1,600万ユーロと高水準となり、イタリアにおける特殊事情から、不良債権の引当率(一般引当金を含む)を2012年度第3四半期から第4四半期の間に90.2%から96.4%に引き上げました。このことが専門金融サービス部門のリスク関連費用合計の増加につながり、2012年第4四半期には6億1,300万ユーロ、2012年度では21億500万ユーロとなりました。2012年12月31日現在、アゴスの不良債権はローン残高合計の13.5%を占めています。

全体では、2012年度の専門金融サービス部門の純利益グループ帰属分は-16億1,300万ユーロ、2012年第4四半期は-10億7,700万ユーロに達しました。これには消費者金融部門ののれん減損処理費用(第4四半期が9億2,300万ユーロ)の-14億9,500万ユーロと2012年度第4四半期のCAL&Fの繰延税金資産の取り崩し3,000万ユーロが含まれています。

4. 資産管理 (SAVINGS MANAGEMENT)

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、資産運用サービスが含まれます。

2012年は当部門の総資産運用額が833億ユーロ増加し、1年間でアムンディのプラスの新規資金流入(純額)が152億ユーロ、CAアシュアランスは19億ユーロの新規資金流入(純額)がありました。全てのセグメントでの堅調な事業展開に加えて、当部門はマーケットと為替において極めてポジティブな影響を受けました(+689億ユーロ)。2012年12月31日現在の資産運用額の合計は1兆844億ユーロとなりました。

2012年度第4四半期の資産管理部門の純利益グループ帰属分は、課税額の増加にもかかわらず、また2011年度第4四半期との比較では利ざやの縮小にもかかわらず、全てのセグメントで堅調な伸びを記録しました。2012年度第4四半期の純利益グループ帰属分は運用資産の伸びや事業全体の堅固な水準(利ざやの低下傾向を相殺)によって4億4,600万ユーロに達しました。

2012年度の当部門の純利益グループ帰属分は、前年同期比80.9%増の17億2,000万ユーロとなりました。尚、前年度の純利益グループ帰属分は、ギリシャのPSI(民間部門の債務免除)損失によるマイナスの影響を反映しています。

(in millions of euros)	Q4-12	Change Q4/Q4	2012	Change 2012/2011
Revenues	1,304	+ 4.6%	5,160	(1.6%)
Operating expenses	(617)	(8.5%)	(2,401)	(4.3%)
Gross operating income	687	+ 20.1%	2,759	+0.9%
Cost of risk	(3)	nm	(55)	(94.9%)
Operating income	684	+81.6%	2,704	+ 62.9%
Equity affiliates	2	(10.1%)	10	(3.7%)
Net income on other assets	-	nm	28	nm
Income before tax	686	+ 81.3%	2,742	+ 64.2%
Tax	(197)	+ 9.2%	(848)	+ 36.8%
Net income	489	x2.5	1,894	+ 80.4%
Minority interests	43	x3.2	174	+ 75.4%
Net income Group share	446	x2.4	1,720	+ 80.9%

資産運用部門では、**アムンディ**では法人セグメント、従業員積立セグメント、販売会社による152億ユーロの新規流入があり、堅調な事業水準を記録しました。アムンディは、流入額では欧州において第2位となりました(出典: Lipper FMI FundFile、2012年11月30日付け。欧州のオープン・エンド型。個別の運用委託契約や個別契約型ファンドを除く)。

2012年度の支店ネットワークを除く新規流入額は260億ユーロでした。そのうち機関投資家・法人部門が188億ユーロ、主にフランス以外の欧州を中心に販社部門が20億ユーロとなっています。従業員積立セグメントへの流入額は52億ユーロでした。支店ネットワークからの流出(1年間で-108億ユーロ)は第4四半期には大幅に減速しました。これは2012年夏以降からの資産流出の反転傾向が続いていることを示しています。

マーケットと為替の影響による+536億ユーロの増加分も含めて、2012年12月31日現在の運用資産は2011年12月31日時点比10.4%増の7,274億ユーロに達しました。

アムンディは、引き続き競争力を強化し、マーケット・シェアを伸ばしました。フランス国内で販売される投資信託のマーケット・シェアは2012年1年間で1.9ポイント増の26.1%に上昇しました(出典: ユーロパフォーマンスNMO、2012年12月31日付)。アムンディは欧州のマネー・マーケット商品ではマーケット・シェア12.2%を占め、第1位となっています(出典: Lipper FMI FundFile、2012年11月30日付。オープン・エンド型)。またフランス国内の従業員積立プランでもマーケットの40%を占め、第1位となっています(2012年6月30日付AGF)。

2012年のアムンディの業績結果は引き続き高い水準を維持しました。2012年度は純利益が16.2%増の4億8,000万ユーロとなりました。パフォーマンスに基づいた手数料収入が極めて好調で(2011年度の7,200万ユーロに対し1億6,600万ユーロ)、このため利ざやの縮小を相殺しました。費用は引き続き厳格に抑えられました。2012年度は1.4%減少し、直近の課税措置の影響を除くと2.3%の減少になります。営業総利益は、12.2%増の6億8,900万ユーロに達しました。年初のハミルトン・レーン(Hamilton Lane)の売却を除いた場合は2.4%増となります。コスト比率は改善し、0.9ポイント低下し55.0%になりました。

2012年度第4四半期の営業総利益は前年同期比4.5%増の1億6,100万ユーロとなり、純利益は30.3%増の1億1,100万ユーロに達しました。収益は、パフォーマンスに基づいた手数料が好調で、6.8%の伸びを示しました。費用は主に課税措置の影響から8.9%増加しました。

資産運用サービス部門では、年初以来CACEISが堅調な事業展開を続けています。CACEISでは、カストディーと資産管理の2つのセグメントが事業部門としての成功を収め、有機的成長を遂げています。さらにCACEISは、債券部門(長期金利の落ち着き)と株式部門(2011年12月と比べCAC40が15%上昇)がともに、マーケットの好影響を享受しました。結果的に、カストディー資産は1年間で10.3%増の2兆4,910億ユーロに達し、預かり資産は同期間で20.3%増の1兆2,510億ユーロに達しました。

2012年第4四半期の純利益グループ帰属分は、利益率の縮小傾向と現金利ザヤの縮小の影響を受け、前年同期比36.4%減の2,590万ユーロとなりました。しかし、1年間では、純利益グループ帰属分は7.6%増の1億4,800万ユーロに達しました。

プライベート・バンキングは、金融危機が続く中で堅調な事業展開を見せました。2012年12月31日現在のプライベート・バンキングの運用資産は、マーケットと為替の影響が有利に作用したことで、2011年12月31日時点比4.7%増の1,320億ユーロとなりました。1年間の資産流出額は27億ユーロに達しました。これはオフ・バランスシートの資産にとってマーケットが不利な環境にあったことと、中南米の非中核資産の売却の影響によるものです。但し、流出の速度は昨年と比べて四半期ごとに緩やかになってきています。その結果、フランス国内の運用資産は1年間で5.6%増の604億ユーロに達しました。海外の運用資産は、同期間で3.9%増の718億ユーロに達しました。

2012年度の純利益グループ帰属分は、2012年度第4四半期の5,200万ユーロを含めて1億3,920万ユーロに達しました。2011年度第4四半期比では160%の大幅増となり、臨時的項目(資金管理と引当金の戻入)を除いても23%の増加となりました。

保険部門では、2012年度第4四半期の保険料収入は66億ユーロで、2012年度は232億ユーロでした。

生命保険(BES Vidalは2012年度第2四半期にBESに売却されており再修正)は、年初の厳しいマーケット環境を凌いだ後、第4四半期は極めて良好な業績結果を達成しました。フランス国内では、保険ビジネスは2011年第4四半期比25%増加しましたが、年間ではマーケットの動きに合わせて11%減少しました(出典:FFSA)。海外では、第4四半期にビジネスが80%伸び、1年間では7%伸びました。全体では、主に2012年の19億ユーロの新規流入純額によって生命保険の運用資産は2012年12月末現在、前年同期比4%増となり、およそ2,250億ユーロに達しました。2012年12月31日現在でこれらの運用資産の18.5%がユニット・リンク型でした。

損害保険は、フランス国内・海外共に引き続き伸びを見せ、保険料収入は2011年12月末から2012年12月末の間に6%増加しました。フランス国内では、2012年の1年間で保険料収入は7%増のおよそ25億ユーロに達しました。一方マーケットは同期間に4%伸びました(出典:FFSA)。2012年度第4四半期には、保険料収入は前年同期比7%増の4億9,300万ユーロに達しました。損害保険の保険料請求に対する支払い件数の割合(再保険後)は厳しく抑えられ、2012年度は70.1%でした。

団体信用保険は、消費者金融市場の減速によって2011年12月から2012年12月の間に6%減少しまし

た。2012年の保険料収入は第4四半期の2億4,400万ユーロを含む9億6,400万ユーロでした。

海外の保険事業では、保険料収入合計(生命保険及び損害保険、但し団体信用保険とBES Vidaを除く)は引き続き増加傾向にあります。生命保険の著しい増加がけん引し、2011年12月から2012年12月の間に7%増の35億ユーロに達しました。

2012年度第4四半期の保険部門の収益は5億5,100万ユーロで、前年同期比2.0%増でしたが、2011年12月末から2012年12月末の間では不利なベース効果によって8.9%減少しました。営業費用は引き続き抑えられ、安定した水準を維持しました。但し、ギリシャのソブリン債をめぐる税額計算上の一時的な影響分は除いています(2011年は6,900万ユーロのマイナス影響額があり、2012年は4,500万ユーロのプラス影響額がありました)。

2012年度の保険部門の純利益グループ帰属分は、第4四半期の2億8,400万ユーロを含め、10億8,100万ユーロとなりました。2011年には、業績を大きく押し下げたユーロ圏のギリシャ支援策の影響がありましたが、2012年は大幅に改善しました。2011年には大きなマイナスの影響を与えたユーロ圏のギリシャ支援策でしたが、2012年は逆にその恩恵を受けて、保険部門の純利益グループ帰属分は前年同期比大幅に改善しました。

資産運用は保守的に運営され、ユーロ圏周辺諸国の国債74億ユーロが2012年中に売却されました。2012年12月末現在、クレディ・アグリコル・アシュアランスのイタリア、スペイン、アイルランド、ポルトガルの国債の保有残高の合計は、2011年12月末の153億ユーロに対し80億ユーロ以下でした。2012年度末現在のギリシャ国債の保有残高はゼロでした(1年前は19億ユーロ)。これまでと同様に債券関連の商品がユーロ建の投資の大部分を占めています(2012年度末現在合計の79.4%)。それ以外に、短期投資が6.9%、不動産が4.9%(建物、不動産及び不動産投資法人の株式)、オルタナティブ投資が1.6%、その他の投資(ヘッジのために調整)が5.5%、その他の商品(プライベート・エクイティ、転換社債等)が1.7%となっています。クレディ・アグリコル・アシュアランス(CAA)は、当グループが大企業や地方自治体にファイナンスにおけるソリューションを提供し、フランス経済のファイナンスにおいて大きな役割を果たしていることを確認しました。CAAは、フランス経済に計100億ユーロ以上を投資してきており、その中には、地方自治体などが関与する企業・機構へのローン(10億ユーロ)や格付けを持たない企業の債券の引受(17億ユーロ)など、革新的な資金融資の30億ユーロが含まれています。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

注記: 2011年度、2012年度の全ての数値は、2012年度第3四半期に認識された非継続事業へのファイナンス事業、資本市場及び投資銀行部門からの非継続事業への譲渡を調整後ベースで示してあります。またIFRS第5号に基づいて2012年度第3四半期のCAシュブルーと2012年度第4四半期のCLSAも調整後ベースで表記しています。

2012年度第4四半期のCIBの純利益グループ帰属分は10億200万ユーロ、2012年度は8億8,000万ユーロでした。

2012年度第4四半期の**継続事業**の純利益グループ帰属分は9億4,900万ユーロでした。これは既存社債とローン・ヘッジの再評価の影響(3億800万ユーロ)とのれんの減損処理費用(8億2,600万ユーロ)によりマイナスの影響を受けたことによるものです。その内訳は次の通りです。

- CIB(ブローカレッジを除く)が4億6,600万ユーロ。
- ブローカレッジ(ニューエッジ)が3億6,000万ユーロ。

事業適応計画の費用(600万ユーロ)とCAシュブルーとCLSAの継続中の売却損(800万ユーロ)を調整後、2012年度第4四半期の継続事業の純利益グループ帰属分は前年同期比73.4%増の1億9,900万ユーロとなりました。この結果は堅調な事業展開や新規ビジネス・モデルの妥当性を反映しています。

継続事業

(in millions of euros)	Q4-12	Q4-12*	Change Q4*/Q4*	12M-12	12M-12*	Change 12M*/12M*
Revenues	458	949	+8.7%	3,389	4,358	(3.3%)
Operating expenses	(662)	(662)	+18.3%**	(2,596)	(2,596)	+2.8%**
Gross operating income	(204)	287	(9.7%)	793	1,762	(14.8%)
Cost of risk	(108)	(108)	(50.0%)	(292)	(292)	(11.0%)
Operating income	(312)	179	+73.7%	501	1,470	(15.5%)
Equity affiliates	49	49	+55.5%	165	165	+22.7%
Net income on other assets	26	26	x3.6	37	37	nm
Change in value of goodwill	(834)	-	nm	(834)	-	nm
Income before tax	(1,071)	254	+78.8%	(131)	1,672	(10.9%)
Tax	119	(50)	x2.1	(94)	(428)	+23.4%
Net income from held-for-sale operations	(8)	-	nm	(249)	-	nm
Net income	(960)	204	+72.9%	(474)	1,244	(5.6%)
Minority interests	(11)	5	+54.7%	4	33	(2.1%)
Net income Group share	(949)	199	+73.4%	(478)	1,211	(5.7%)

* 既存社債とローン・ヘッジの再評価、事業適応計画の影響、IFRS第5号に基づくCAシュブルーとCL証券アジア(CLSA)の計上、のれん代の消却費用を修正後。

** 一定の為替レート。

継続事業の業績結果は、これまでよりも有利な経済環境で資本市場が回復していることや、市場の流動性が縮小する状況下でファイナンス事業の減少は抑えられていることを反映しています。2012年

度第4四半期の営業費用は不動産ポートフォリオの合理化に伴う費用(2,400万ユーロ)と夏季に制定された新規課税や年金改正法などに伴う費用(システミック・リスク税や所得税の倍増)などのマイナスの影響を受けました。それにより2011年度第4四半期から2012年度第4四半期の間に2,000万ユーロの費用が発生しました。さらに、2011年度第4四半期は2011年度の賞与を20%削減したことを反映しており、これによりベース効果が発生しました。これらの項目を含めた費用は、一定の為替レートのもとで2012年度第4四半期が前年同期比18.3%増、2012年度は2.8%増となりました。2012年度第4四半期のリスク関連費用は前年同期比50%減の1億800万ユーロでした。

第4四半期の**非継続事業**の費用は抑えられました(純利益グループ帰属分は+1,700万ユーロ、事業適応計画の費用7,000万ユーロを修正)。

2012年度第4四半期のその他の資産の純利益はラ・デフェンス (La Défense ; 700万ユーロ)にある本社ビルの売却とトルコの子会社CA Yatirim Bankasi Turk ASの売却後+2,600万ユーロとなりました。

事業適応計画の最終費用は主に非継続事業の費用で、2012年度が3億9,200万ユーロ、2012年度第4四半期が7,600万ユーロでした。

ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q4-12	Q4-12*	Change Q4*/Q4*	12M-12	12M-12*	Change 12M*/12M*
Revenues	499	478	(16.7%)	2,092	2,128	(16.2%)
Operating expenses	(253)	(253)	+28.8%**	(947)	(947)	+6.6%**
Gross operating income	246	225	(40.6%)	1,145	1,181	(29.3%)
Cost of risk	(119)	(119)	(42.7%)	(293)	(293)	(8.2%)
Operating income	127	106	(38.0%)	852	888	(34.2%)
Equity affiliates	48	48	+60.3%	164	164	+22.6%
Net income on other assets	25	25	x2.2	26	26	x12.8
Change in value of goodwill	-	-	nm	-	-	nm
Income before tax	200	179	(16.0%)	1,042	1,078	(27.5%)
Tax	(10)	(2)	(96.8%)	(278)	(291)	(40.0%)
Net income from held-for-sale operations	-	-	nm	-	-	nm
Net income	190	177	+27.5%	764	787	(21.4%)
Minority interests	3	3	+14.7%	15	16	(29.3%)
Net income Group share	187	174	+27.7%	749	771	(21.3%)

* ローン・ヘッジを再修正後、事業適応計画の影響額前。

**一定の為替レート。

2012年度第4四半期の**ファイナンス事業**の収益は、事業適応計画と「Distribute to Originate」という新たなビジネス・モデルの実施による影響を受けました。ローン・ヘッジと事業適応計画の影響額を修正後、収益は4億7,800万ユーロとなりました。事業適応計画に基づくローンの売却は第4四半期中も継続され、4億ユーロが売却されました。ローン売却は(2011年も含む)、平均ディスカウント率2.3%で合計103億ユーロに達しました。さらに2011年12月14日に発表されたように、「Distribute to Originate」の新規ビジネス・

モデルは段階的に実行されてきました。

厳しいマーケット環境で残高が減少する中、ストラクチャード・ファイナンスの収益は低下したものの、競争力を維持しました。CA-CIBはEMEA(ヨーロッパ、中東及びアフリカ)地域のプロジェクト・ファイナンス部門で第2位を維持し、米国地域のプロジェクト・ファイナンスでは第4位へと上昇しました(出典:トムソン・ファイナンシャル)。2012年度第4四半期のストラクチャード・ファイナンスの収益は、2011年度第4四半期の3億3,000万ユーロに対し2億6,700万ユーロとなりました(ローン・ヘッジと事業適応計画の影響額を修正後)。

商業銀行部門では、収益が2011年度第4四半期の2億4,400万ユーロから2012年度第4四半期には2億1,100万ユーロに減少しました(ローン・ヘッジと事業適応計画の影響額を修正後)。CA-CIBはフランス国内のシンジケーション部門で第1位を維持しました(出典:トムソン・ファイナンシャル)。

2012年度第4四半期に4億9,900万ユーロに達した収益にも、事業適応計画に基づいて売却されたローンの費用が含まれています(-1,100万ユーロ)。一方、ローン・ヘッジは、前期に3,600万ユーロのマイナスの影響額を出したのに対し、当期は3,200万ユーロのプラスの影響を生みました。

2012年度第4四半期のリスク関連費用は1億1,900万ユーロで、前年同期比42.7%減少しました。これは特定引当金を要するローンがわずかであったことを反映しています。

全体では、2012年度第4四半期の純利益グループ帰属分は、ローン・ヘッジと事業適応計画の影響額を修正後、前年同期比27.7%増の1億7,400万ユーロとなりました。この業績結果は事業適応計画の費用にもかかわらず当部門の事業が堅調に展開したことを示しています。

資本市場及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q4-12	Q4-12*	Change Q4*/Q4*	12M-12	12M-12*	Change 12M*/12M*
Revenues	(41)	471	+57.5%	1,297	2,230	+13.2%
Operating expenses	(409)	(409)	+12.6%**	(1,649)	(1,649)	+0.7%**
Gross operating income	(450)	62	nm	(352)	581	+45.9%
Cost of risk	11	11	nm	1	1	nm
Operating income	(439)	73	nm	(351)	582	+49.4%
Equity affiliates	1	1	nm	1	1	nm
Net income on other assets	1	1	nm	11	11	nm
Change in value of goodwill	(834)	-	nm	(834)	-	nm
Income before tax	(1,271)	75	nm	(1,173)	594	+52.7%
Tax	129	(48)	nm	184	(137)	+86.4%
Net income from held-for-sale operations	(8)	-	nm	(249)	-	nm
Net income	(1,150)	27	nm	(1,238)	457	+44.9%
Minority interests	(14)	2	x3.8	(11)	17	+56.1%
Net income Group share	(1,136)	25	nm	(1,227)	440	+44.5%

* 既存社債とローン・ヘッジの再評価、事業適応計画の影響、IFRS第5号に基づくCAシュブルーとCLSAの計上、のれん代の売却費用を修正後。

**一定の為替レート。

資本市場及び投資銀行部門の収益は、既存社債の再評価(−5億1,200万ユーロ)によるマイナスの影響を受け、第4四半期には−4,100万ユーロとなりました。この影響額は2012年度第4四半期のクレディ・アグリコルS.A.のリファイナンス条件が改善されたことを示しています。この影響額を修正後、収益は前年同期比57.5%増の4億7,100万ユーロとなりました。

第4四半期には、金融緩和傾向が続き長期金利が低下する中で、当部門の事業は堅調な展開を見せました。資本市場部門の収益は既存社債の再評価と事業適応計画の影響額修正前で3億2,200万ユーロとなり、2011年度第4四半期(1億3,300万ユーロ)比で大幅に増加しました。その結果、2012年度第4四半期のCA-CIBは債券部門で優れた業績を達成し、収益は2011年度第4四半期から2012年度第4四半期の間に倍増しました。CA-CIBは、金融機関によるユーロ債新発債のリーグ・テーブルにおいて世界第2位を獲得し、全ユーロ債新発債では第4位を維持しました(出典:トムソン・ファイナンス)。さらに、債券部門とクレジット・デリバティブ部門は第4四半期に好業績に恵まれたことから、2011年度第4四半期から2012年度第4四半期の間に収益が87%増加しました。

株式部門は、現在投資銀行部門とブローカーのニューエッジから構成されており(IFRS第5号に基づいて2012年度第3四半期にシュブルーを、2012年度第4四半期にCLSAを計上後)、2012年度第4四半期の収益は前年同期比わずかに減少し、1億4,900万ユーロでした。ブローカレッジ業務の取引高は、引き続き低水準となりました。

2012年度第3四半期にIFRS第5号に基づいて計上されたCAシュブルーの継続中の売却による推定影響額は、1年間で−1億9,200万ユーロでした。同様に、IFRS第5号に基づいて2012年12月31日に計上された営業純利益は、2012年度第4四半期の−1,100万ユーロを含めて1年間で−5,700万ユーロでした。

2012年12月31日現在の最大損失予想額 (VaR) は、前年比34%減の1,000万ユーロでした。

非継続事業

(in millions of euros)	Q4-12	Q4-12*	Change Q4*/Q4*	12M-12	12M-12*	Change 12M*/12M*
Revenues	20	20	nm	(201)	162	nm
Operating expenses	(58)	(58)	(24.2%)	(294)	(294)	(22.8%)
Gross operating income	(38)	(38)	(74.4%)	(495)	(132)	(72.6%)
Cost of risk	(72)	40	x13.2	(176)	(25)	(85.6%)
Operating income	(110)	2	nm	(671)	(157)	(76.1%)
Equity affiliates	-	-	nm	-	-	nm
Net income on other assets	1	1	nm	2	2	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm	-	-	nm
Income before tax	(109)	3	nm	(669)	(155)	(76.5%)
Tax	56	15	(75.3%)	240	54	(73.6%)
Net income from held-for-sale operations	-	-	nm	-	-	nm
Net income	(53)	18	nm	(429)	(101)	(77.8%)
Minority interests	-	1	nm	(27)	(20)	(42.8%)
Net income Group share	(53)	17	nm	(402)	(81)	(80.7%)

*事業適応計画の影響額を修正後。

第4四半期の非継続事業の純利益グループ帰属分は、今期もわずかに留まりました。事業適応計画の直接費用7,000万ユーロの修正後純利益グループ帰属分は、2011年度第4四半期の-1億1,400万ユーロに対し、今期は1,700万ユーロでした。

非継続事業では、CDO とRMBSポートフォリオの売却及び減損は2012年度中も継続され、純利益グループ帰属分に3億2,100万ユーロのマイナスの影響がありました。これには、銀行勘定のCDOを再評価した結果、2012年度第4四半期の減損と分類された部分の-7,000万ユーロが含まれています。

2012年度第4四半期の非継続事業の収益は+2,000万ユーロに達しました。2012年度の収益は、事業適応計画の影響を修正後、新規非継続事業の+1,400万ユーロを含めて+1億6,200万ユーロとなりました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q4-12	Change Q4/Q4	2012	Change 2012/2011
Revenues	(805)	x4.7	(1,841)	x2.2
Operating expenses	(254)	(12.9%)	(916)	(6.7%)
Gross operating income	(1,059)	x2.3	(2,757)	+50.8%
Cost of risk	(6)	nm	(275)	(19.1%)
Operating income	(1,065)	+46.7%	(3,032)	+39.9%
Equity affiliates	(24)	nm	(122)	x4.6
Net income on other assets	83	nm	123	nm
Income before tax	(1,006)	+38.1%	(3,031)	+37.9%
Tax	368	+63.3%	854	+7.2%
Net income	(638)	+26.9%	(2,177)	+54.5%
Minority interests	8	(80.1%)	128	(28.9%)
Net income Group share	(646)	+18.6%	(2,305)	+45.0%

2012年度第4四半期の収益は、2011年度第4四半期の－1億7,200万ユーロに対し、－8億500万ユーロでした。当期の収益は、クレディ・アグリコルS.A.が発行し、ユニット・リンク型契約の保険契約者の名義でブレディカが保有していた自社債のグループ内の相殺により影響を受けました。これによって第4四半期に－3億2,500万ユーロ、1年間で－6億1,800万ユーロの影響額が出ました。相殺された証券の額面金額は2012年12月31日付けで81億ユーロでした。

2012年度第4四半期の営業費用は前年同期比12.9%減少し、2012年度は6.7%減少しました。

税金には、保険会社の資本準備金に対する特例的な7%の課税の影響額1億2,800万ユーロが含まれています。

全体では、発行済債券のスプレッドと Exit Tax修正後、2012年度第4四半期の純利益グループ帰属分は－3億500万ユーロでした。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

(in millions of euros)	Q4-12	Change Q4/Q4*	2012	Change 12M*/12M*
Revenues	7,131	(9.8%)	31,044	(8.0%)
Operating expenses	(5,329)	(3.0%)	(20,420)	+0.1%
Gross operating income	1,802	+25.1%	10,624	(20.2%)
Cost of risk	(1,211)	(20.8%)	(4,643)	(12.4%)
Operating income	591	(32.7%)	5,981	(25.4%)
Equity affiliates	(201)	(78.8%)	(233)	(70.4%)
Net income on other assets	116	x11.3	205	nm
Change in value of goodwill	(2,892)	+73.1%	(3,470)	x2.1
Income before tax	(2,386)	+38.0%	2,483	(55.4%)
Tax	(250)	(33.2%)	(2,247)	(17.1%)
Net income from held-for-sale operations	(718)	nm	(3,991)	x2.3
Net income	(3,354)	+35.0%	(3,755)	nm
Net income Group share	(3,269)	+29.4%	(3,808)	nm

* 2011年度と2012年度はIFRS第5号に基づいてエンポリキ、シュブルー、CLSAを修正。

2012年度第4四半期は、事業適応計画の完了に特徴づけられます。クレディ・アグリコルS.A.の事業の見直しと純利益グループ帰属分で認識されたのれん代の減損処理合計28億300万ユーロにより、同計画は2012年9月30日に既に目標を上回っています。

のれん代の減損処理は純利益グループ帰属分に費用と同額のマイナス影響額を出しましたが、当グループのソルベンシーや流動性には影響がありませんでした。実際、該当企業の買収時に支払いが行われたため、のれん代はソルベンシー・レシオの算出からは完全に控除されており、流動性にも何ら影響がありません。そのような状況を背景に、当グループは財務ポジションを強化し、コア・ティア1レシオ（バーゼル2.5）は11.4%で、2012年9月30日時点比10ベース・ポイント上昇、2011年12月31日時点比120ベース・ポイント上昇しています。エンポリキの売却の調整後ベースでは、2012年12月31日現在のコア・ティア1レシオは11.8%でした。

地域銀行は堅調な事業展開を維持しました。預金残高は2011年度12月末時点比4.4%増加し、ローン残高は同期間で1.4%増加しました。預貸比率は、2011年12月以降3ポイント改善し、2012年12月31日現在126%に達しました。IFRSに100%基づいた2012年度第4四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比5.1%増の8億5,100万ユーロに達しました。これは2012年度第3四半期に近い水準でした。2012年度の純利益グループ帰属分は前年同期比3.4%増の35億3,800万ユーロでした。

2012年度第4四半期のクレディ・アグリコル・グループの収益は前年同期比9.8%減の71億3,100万ユーロでした。収益には既存社債の再評価が含まれており、2011年度第4四半期はこれが2億2,800万ユーロのプラスの影響額だったのに対し、当期は8億3,700万のマイナス影響額でした。

2012年度の費用は抑えられ(+0.1%)、2012年度第4四半期は前年同期比3.0%減少しました。

同費用は、エンポリキのリスク関連費用を修正後の2011年度第4四半期は、信用残高に対し60ベース・ポイントに相当しましたが、2012年度第4四半期は55ベース・ポイントでした。ユーロ圏包括合意のギリシャ支援策に伴う1億8,600万ユーロを含む2011年度第4四半期に対し20.8%減少しました。同費用は2012年度第4四半期の信用残高の55ベース・ポイントに相当しました。

保険会社によって非課税とされていた資本準備金に対する例外的な課税と、のれん代の減損費用の計上により、2012年度第4四半期の純利益グループ帰属分は-32億6,900万ユーロでした。

2012年度のクレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は-38億800万ユーロでしたが、この中には第4四半期の特殊要因に加えて、クレディ・アグリコルS.A.の事業見直しに関するさらに前の期からの決定事項の影響が含まれています。具体的には、エンポリキとその売却に関連する損失額、CAシュブルーの売却、インテサ・サンパオロの売却、バンキンターの連結除外、自社債の再評価によるマイナスの影響額などです。

既存社債の再評価、のれん代やBESの減損処理、事業適応計画による影響、エンポリキ売却の最終条件による影響、継続中のCAシュブルーの売却、保険部門のExit Taxといった影響を取り除けば、修正後、クレディ・アグリコル・グループの2012年度の純利益グループ帰属分は、前年同期比7%減の56億7,700万ユーロとなります。

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the fourth quarter and full-year 2012 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders under "Financial reporting" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the *Code Monétaire et Financier* and articles 222-1 *et seq.* of the AMF General Regulation.

INVESTOR RELATIONS +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber	+ 33 (0) 1 43 23 26 78	Laurence Gascon	+ 33 (-0) 1 43 23 38 63
Nathalie Auzenat	+ 33 (0) 1 57 72 37 81	Fabienne Heureux	+ 33 (0) 1 43 23 06 38
Sébastien Chavane	+ 33 (0) 1 57 72 23 46	Marie-Agnès Huguenin	+ 33 (0) 1 43 23 15 99